

# 小学校における食育

—「食に関する全体計画」の提案—

西村 友希

## 1. はじめに

「食べる」という行為は、生きていくための最低限の要件であり、健全な発達や成長はこれによって大きく左右される。しかし、現代社会では「食の危機」が叫ばれて久しく、食の諸問題の深刻化が指摘されている。そのような中で、平成 17 年に食育基本法を施行され、食育はとても重要なものとして認識されてきた。また、現代社会における食の問題は、子どもにも影響を与えており、子どもへの食育、特に学校における食育の重要性が注目されている。

平成 21 年の学校給食法一部改正では、「学校給食を活用した食に関する指導」が新設され、「食に関する指導の全体計画を作成すること」とされている。さらに、愛知県教育委員会教育長によって、同年 2 月 23 日に「食に関する指導の全体計画作成について」の通知が、愛知県全小中学校に出され、平成 21 年度末に全県調査が実施される予定である。

本研究室では、食育キャラクター「食まるファイブ」を活用した学校での食育の研究を行ってきたが、行事的、単発的な取り組みになりがちで子どもたちに定着しにくいことが課題であった。

そこで、本研究では、「食まるファイブ」を活用した「食に関する指導の全体計画」の作成し、それにそって食育を進めていくことで、系統的かつ継続的な取り組みになり、より有効的な食育の実践が可能になるのではないかと考えた。そして、子どもにとってわかりやすく、楽しく、興味を持って食育を行っていけるような、また、どの学校でも「食まるファイブ」を活用した、その学校独自の食育が行えるような、「食に関する全体計画」案を提案したいと考えた。

## 2. 研究方法

### 2.1 文献調査

現代社会における食に関する現状、子どもの食をめぐる現状、食育に関する調査を、各種調査結果や関連文献より調査をした。

### 2.2 実態調査

子どもの食生活の実態を調査するために、知多郡阿久比町の小学校 4 校の子どもを対象に食に関するアンケート調査を行った。また、小学校職員の食意識を調査するために、愛知県下の小学校 20 校の職員 446 名に食に関するアンケート調査を行った。さらに、愛知県下の小学校での食育の実践の現状を把握するために、愛知県下の小学校 46 校に食育実践に関するアンケート調査を行った。

### 2.3 「食に関する指導の全体計画」にそった刈谷市立H小学校での実践の検討

刈谷市立H小学校で「食まるファイブ」を活用した「食に関する指導の全体計画」にそった実践

より、「食に関する指導の全体計画」の有効性を検討し、職員と子どもを対象にした食に関するアンケート調査、授業等での子ども、保護者の感想から検討・考察を行った。それを基に、どの小学校でも活用できるように「食に関する全体計画」案を作成した。

### 3. 結果と考察

#### 3.1 文献調査結果

食生活の変化から肥満や生活習慣病の増加などの「食と生活」に関わる問題、表示偽装などの「食と安全」に関わる問題、食料自給率の低迷や食品ロスなど「食と環境」に関わる問題が深刻化していることがわかった。これらは子どもにも影響を与えている。これらを受け、様々な食育に関する政策が出され、様々な食育の定義がされていた。

#### 3.2 実態調査

知多郡阿久比町の小学校4校の子どもを対象にした食に関するアンケート調査と、小学校職員を対象にした食に関するアンケート調査から、小学校での食育が必要とされていることがわかった。また、食育を行っている学校では、各学校で工夫された食育への取り組みがなされていたが、食育への取り組み方には学校による差がみられた。

#### 3.3 「食に関する指導の全体計画」と刈谷市立H小学校での実践の検討

「食に関する指導の全体計画」を立てることで、「学校の全教職員で統一した食育に取り組むことができる」「各教科等との連携がわかりやすく、また、とりやすくなる」「保護者や地域の人にわかりやすく説明するための資料となる」ことが考えられる。

H小学校での実践により、「食まるファイブ」を活用した「食に関する指導の全体計画」にそって食育を進めていくことで、系統的、継続的な取り組みになり、子どもたちの食に対する意識が構築され、一時的な食に対する意識の変化ではなく、食に関する行動の変化の定着が図れる可能性が伺えた。また、「食まるファイブ」を活用する場が、子どもどの発達段階で、どのような取り組みとして必要になるかが分かり、継続的に食育を進めていく際にも、参考にすることができる。子どもたちは他学年の取り組みを見て、自らの一年間の見通しを立てることができ、一年通しての取り組みにより子どもや家庭、教師の振り返りが可能になり、大きな意味があると考えられる。

### 4. まとめ

H小学校での実践により、「食まるファイブ」を活用した「食に関する指導の全体計画」にそって食育を進めていくことで、単発的な取り組みから系統的、継続的な取り組みになり、より子どもに有効な取り組みになることがわかった。しかし、今回提案した「食に関する全体計画」案ではまだ不十分な部分がある。今後の課題として、不十分な部分を補足するため、この「食に関する全体計画」案を活用して実践を行い、さらなる検討が必要である。全国どの小学校でも、保護者や地域の人、企業を巻き込み、「食まるファイブ」を活用した、楽しく、わかりやすい食育が行われることを可能にするために、その学校独自の食育実践が簡単に行えるような「食に関する全体計画」案を続けて検討していきたい。

(指導教員 西村敬子)